
カフェオレ

ユキタテイシ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

カフェオレ

【Nコード】

N7389B

【作者名】

ユキタティシ

【あらすじ】

都会で暮らす「私」が正月に実家に帰ったときのお話。

深いグリーンのマグカップにさつき煎れたばかりのコーヒーが注がれ差し出される。

私がいつも使っていたやつだ。

洋子さんも愛用のカップを手に私の向かいに座る。

12月31日、午後11時50分。

正月休みを実家で過ごすため東京から5時間かけて田舎の家に着いたのは昨日の事だった。

今日は洋子さんの誕生日だった。

贈り物なんて幼稚園の母の日以来した事がなかったが、今年は私も社会人一年目なので彼女の好きなコーヒーと欲しがっていたピアスを選んだ。

私はコーヒーの事はよく分からない上に味にも疎いので、インスタントと豆から煎ったものの違いも分からない程だったが、この香ばしく深い香りの中にいると落ち着いた気分になれるので、仕事の合間に近くのコーヒESHOPに通う様になっていた。

洋子さんの注れたブラックを一口飲んでみる。

…苦い。

やはりこの味わいはまだ私には分からないらしい。

傍らにあったミルクと角砂糖を二つ入れる。

特に会話もなく、長い沈黙の中で私はストーブに足をかざしてコーヒーをすすった。洋子さんがテレビのスイッチを入れる。

ちょうど年越し番組をやっている所だった。

こちらとは対称的に賑やかに騒ぐ人達を二人でぼうつと眺めた。

洋子さんと二人だけで年を越すのはこれが初めてだ。

これまでなら年越しだろうと何だろうと一人でさっさと寝てしまっ

ていたのに。

この人がこんな遅い時間まで起きている事自体珍しいのだ。

父が家を出ていったからもう何年になるだろう。

私も妹も都会で一人暮らしをはじめて、この広い家に一人きりになつてしまった洋子さんは最近、ラジオやテレビをつける事が増えたと言う。

うるさいのを嫌った彼女が、だ。

窓辺を見るとクリスマスやサンタクロースやトナカイなどの細々とした人形がそのままに並べてあった。

家に帰った時はまず、玄関まわりが派手に飾り付けられているのを見て私は驚いてしまった。

洋子さんはこれまで寂しさを口にした事はただの一度もなかったが、やはりこの年での一人の生活は少なからず寂しいものがあるのだろう。

彼女の少し強情っぱりな性格がそうさせているのだとしたら余計に切ない。

甘くなったコーヒーが胸にしみる。

アイドル達のお祭り騒ぎにつられ笑い声をあげていた洋子さんだったが、ふと静かになったので見てみるとカップを手にしたまま目をつぶっている。

もう眠ってしまったのかもしれない。

「今年もお疲れ様」

私は心の中でつぶやく。ところで、いくつになったんだっけ？

テレビの向こうでは2007年を迎えるカウントダウンが始まるうとしていた。

まもなく午前0時、もうすぐ新年がやってくる。

「完」

（後書き）

読んでくださってありがとうございます。
感想待ってます！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7389b/>

カフェオレ

2011年1月13日07時06分発行